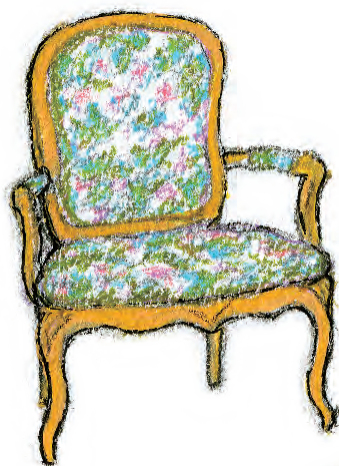
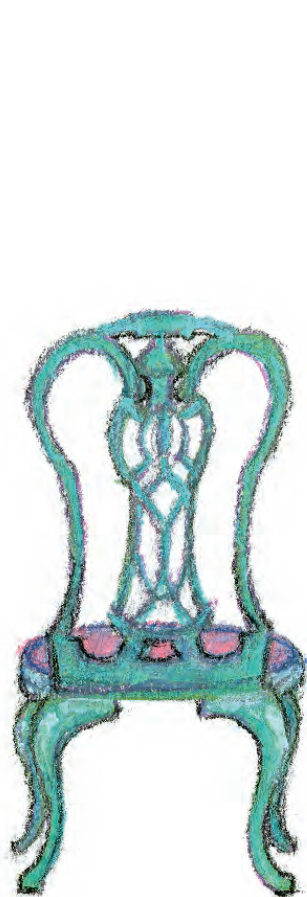


# 私の小宇宙

Sweden

絵・文  
深井せつ子



## 「椅子・椅子・椅子」

家具の中では、特に椅子に魅かれる。

食事をする椅子、勉強をする椅子、

接客をする椅子、楽にくつろぐ椅子…。

魅力的な椅子は世界中にあるが、

その中でも北欧製品は人気が高い。

フィン・ユールやウエグナー作品を

愛用している人もいらっしゃると思う。

ムダが極限まで削ぎ落とされシンプルでありながら美しい。

そっと触れると、なんとも言えない木の温もりを感じる。

ここに描いた椅子は高名デザイナーのものではない。

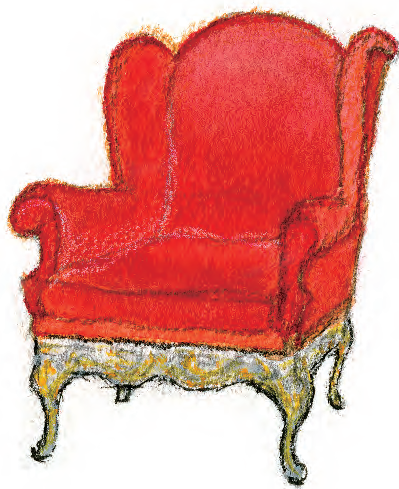
北欧を旅する私をゆったりと休ませてくれたり、

食事に付きあってくれたり、思わず見惚れてしまったりの、

思い出深い椅子たちだ。

チェストは飾り棚部分に手前に引き出す板があり書き物机に変身する。

隣の椅子は、その時のためにとじつと出番を待っているかのよう。



### Profile

#### 深井せつ子

画家。北欧各国の清涼な風景に魅かれ、北欧行を重ねながら、個展・出版等で作品の発表を続けている。北欧絵本に『イエータ運河を行く』、『風車がまわった!』、『森はみんなの保育園』、『スウェーデンの変身する家具』、他の地域の絵本に『一枚の布をぐるぐるぐる』など（全て福音館書店発行）。

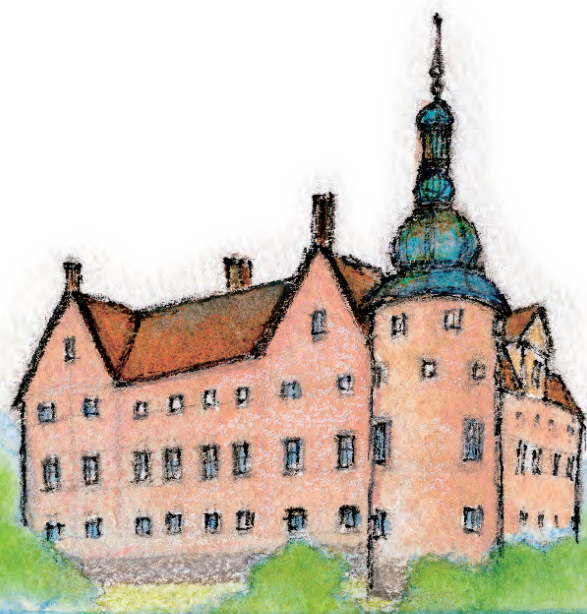
[ホームページ] [www.setsukofukai.com](http://www.setsukofukai.com)



# 私の小宇宙

Sweden

絵・文  
深井せつ子



vittskövle



## 「スコーネの魅力」

スウェーデンを代表する児童文学作家、アストリッド・リンドグレンの作品では、ピッピやロッタちゃんが多くの子どもたちに人気がある。それは主人公が魅力的ということも大きいと思う。セルマ・ラーゲルレーヴの『ニルスの不思議な旅』は少々趣きが違う。

ニルス少年が主人公だが、本当の主役はスウェーデンの風景そのものなのだ。

この本は、もともと小学校の地理の教科書にと書かれた作品。

小人にされてしまったニルスがガチョウのモルテンに乗って南端から北の雪山まで旅をする。この国の地理と地形がとても楽しく分かっていく作品。

ニルスが生まれたスコーネ地方は、豊かな穀倉地帯。

地形はなだらかで穀物がよく実り、豪農の屋敷や貴族の城も見える。

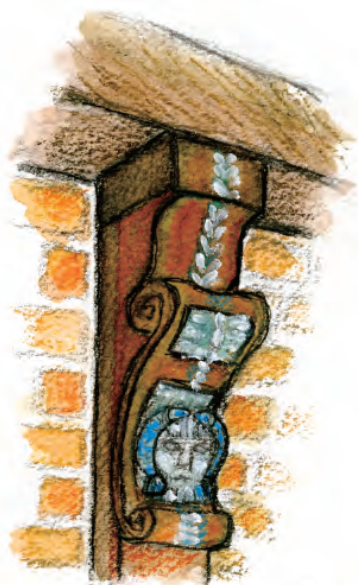
どこまでも平坦な大地、海からの風、大きな空、スコーネは私が育った土地に良く似て懐かしい気持ちになる。

### 深井せつ子

画家。北欧各国の清涼な風景に魅かれ、北欧行を重ねながら、個展・出版等で作品の発表を続けている。北欧絵本に『イエータ運河に行く』、『風車がまわった!』、『森はみんなの保育園』、『スウェーデンの変身する家具』、他の地域の絵本に『一枚の布をぐるぐるぐる』など（全て福音館書店発行）。

〔ホームページ〕 [www.setsukofukai.com](http://www.setsukofukai.com)





Timber bracket



# 私の小宇宙

Sweden

絵・文  
深井せつ子

## ティンバーフレームと 柱飾り

スウェーデン南端の古都では、  
木組みとレンガの古民家が多い  
(ティンバーフレーム 木骨造り)。

たいてい、上の階が妙に外側に  
せり出した造りになっている。

これは、建築規制は守ったけど、  
空間には張り出して上の階は  
広くしますよ、という  
庶民の知恵だという。

上の階を支える柱飾りは、  
どれも素敵。

人の顔や植物、  
魚がデフォルメされ、  
手彫りで造られている。

時が経ち、家も柱飾りも、  
いくぶん、歪んできた。  
でも、それもまた、美しい。



Profile

深井せつ子

画家。北欧各国の清涼な風景に魅かれ、北欧行を重ねながら、個展・出版等で作品の発表を続けている。北欧絵本に『イエータ運河に行く』、『風車がまわった!』、『森はみんなの保育園』、『スウェーデンの変身する家具』、他の地域の絵本に『一枚の布をぐるぐるぐる』など（全て福音館書店発行）。

〔ホームページ〕 [www.setsukofukai.com](http://www.setsukofukai.com)



# 私の小宇宙

Sweden

絵・文  
深井せつ子



## リンドグレン

児童文学作家リンドグレンの作品は多くの国で翻訳されている。

ロッタちゃんシリーズ、ピッピシリーズ、やかまし村の子どもたちなどは、

世界中の児童に現在も人気だ。

ロッタちゃんの映画も、愛らしく秀逸。

2019年末、映画「リンドグレン」を

岩波ホールに観に出かけた。

それは、作家になる前の青春時代のストーリー。

手抜きしないリアルは北欧映画の持ち味かもしれない。

美しいスモーランドの風景が辛い青春を

いつそう浮き立たせていた。

この生家の赤い家は、作家時代に夏の家として楽しみ、執筆もしていたと地元の人から聞いた。

ここからエミール、ピッピなどが生まれ巣立っていった。

そんな人生後半の作家の姿も映画で見たかったなあ、

と思ったのは私の贅沢な願いかもしれない。

(現在はリンドグレン博物館が来ています。この実家に良く似ているが、少し違う)

① リンドグレンが育った実家

② この時代のランプの灯り

③ スモーランド地方でみられた昔のキッチン

## 深井せつ子

画家。北欧各国の清涼な風景に魅かれ、北欧行を重ねながら、個展・出版等で作品の発表を続けている。北欧絵本に『イエータ運河に行く』、『風車がまわった!』、『森はみんなの保育園』、『スウェーデンの変身する家具』、他の地域の絵本に『一枚の布をぐるぐるぐる』など(全て福音館書店発行)。

[ホームページ] [www.setsukofukai.com](http://www.setsukofukai.com)